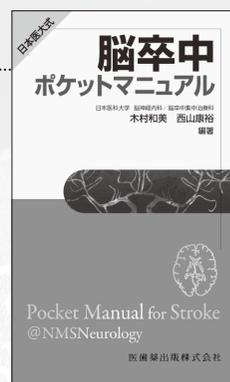


## 『日本医大式 脳卒中ポケットマニュアル』

木村和美, 西山康裕(日本医科大学 脳神経内科/脳卒中集中治療科) 編著

●定価 4,200 円+税 ●医歯薬出版刊 ●新書判 312 頁

●2018 年 11 月発行 ●ISBN978-4-263-73187-1



このたび、日本医科大学神経内科学の木村和美教授、西山康裕准教授の編著による『脳卒中ポケットマニュアル』が刊行された。ご存知のとおり、木村教授は一貫して「診療の役に立つ臨床研究」を心がけてこられた。すなわち、国立循環器病センター在任中の頸部血管超音波診断、川崎医科大学では倉敷市の救急隊を巻き込んでの脳梗塞急性期の診断・治療システムの構築、日本医科大学の主任教授として赴任してからは、新しい SCU (stroke care unit) での先端的治療への挑戦などである。

本書の構成には、木村教授のポリシーがいろいろな場面でちりばめられている。そして項目ごとにその冒頭に必要かつ重要なポイントがまとめられ(「ここが POINT!」)、それに「便利メモ」というコラムも挿入されているのは、実際の臨床にあたっては大いに役に立つと思う。まず、脳卒中の診療は「ホットライン」の電話が鳴った時に始まるという考え方で、その時点で診断・治療に必要なあらゆることを考えた上で、準備しなければならないことを示している。

病歴と臨床所見(診察)、最少限の検査で短時間のうちに病型診断をつけて、出血性合併症が否定されたら、必要に応じて血行再建療法(rt-PA 点滴静注、カテーテルを用いた血栓回収による血行再建などの血管内治療)の選択を検討するという迅速な対応の必要性が強調されている。続いて、その次の項目として急性期の看護の重要性を意識して、SCU での看護(もちろん、一般病棟での看護についても項目を改めて記載)が取り上げられているのも特徴的であり、チーム医療で「患者を治す」という視点からきわめて重要である。実際の診療に即した木村教授らしい配慮だと考える。

全体として言えることであるが、いわゆる「マニュアル」という小さな書物であるのに、脳卒中診療におけるほぼすべての新しい知見が数多く盛り込まれていることは有難い。さらに、マニュアルの末尾に、臨床上しばしば遭遇する事象 10 項目、たとえば透析患者に発症した脳卒中や、認知症患者に発症した脳卒中について、Q & A 形式で簡潔にまとめてあるのは、若い研修医諸君にとっては、大いに役立つと思う。

(山口武典 / 国立循環器病研究センター 名誉総長)